

巻頭言：「新年」に思いを巡らせてみた。

総務管理官 渡部 博実

平成 29 年の新春を迎え、心よりお喜び申し上げます。

今年（2017 年）の干支は酉年である。酉年にも五つほど種類があるようで「丁酉（ひのととり）」となり、丁（ひのと）の文字は釘から来ており「安定する」を意味し、また、酉は「酒」に関する時に用いられ、収穫した作物から酒を造るといったことから「実る」と言う意味があることから「実り安定する年」となるとのこと。

一方の陰陽五行説では、丁（火）と酉（金）となり、相克（対立、争う）の関係になるとも言われており、「あまり善いようにならないことを暗示？」するとも言われております。考えると、今年 1 月はアメリカのトランプ政権が 20 日からスタートしますが、昨年の大統領選以来、その言動（対立や争いの予感を臭わせ）に日本も含め世界各国がトランプ氏の動向等を（正に「トランプ占い」であるがごとく次のカードを）着目しているところである。

船出は波風荒く悪天候であれど、やがて静まり穏やかな航海となり「実り安定する年」となることを期待したいところであります。

昨年の中国（広島）地域での出来事を振り返ると、なんと言っても流行語大賞となった「神ってる」の鈴木誠也選手や「男気」の黒田博樹投手を率いる「広島東洋カープ 25 年ぶりのリーグ優勝」であろう！広島の地のみならずあちらこちらでトレードカラーの「赤」色に染まった光景が今も目に焼き付いている。さらには「オバマ大統領の広島（原爆慰霊碑）訪問」という歴史的な大きな出来事もありました。

また、東日本大震災の爪痕も未だ癒えぬ中で、隣の九州で熊本震災が発生し、当局も職員派遣の支援を続けるさなかに、当中国管内の鳥取県（倉吉市を中心とした）大地震発生といった予期せぬ災害にも見舞われました。（当中国四国厚生局も、昨年末から現地へ赴き、被災を受けた福祉関係施設等の被害状況確認（災害査定）作業に現在も奔走しているところです。）平成 26 年の土砂災害に続く管内の災害に、改めて「危機への備え」等を再認識したところでもあります。

話は変わりますが、私事ではあるが昨年（申年）還暦を迎えた。（単身赴任宅の TV 越しに前述のカープの優勝で「赤」色に染まる光景を（カープ女子のユニホーム姿を我が身になぞらえて）眺めつつ一人祝い酒を頂きました。）

例年 11 月は年金の強化月間とされており、さらには 11 月 30 日を（いい未来の語呂）「年金の日」と定め「国民が年に一度、それぞれの老後等生活と年金について思いを巡らす日」として年金の意義等についての理解促しに努めています。私もこの月間のイベントで中国管内の地方に出向く機会がありました。

過疎化と共に、鉄道やバスの路線廃止や本数の見直し等が進む中での路線バスの待合室での会話に耳を傾けてみた。「体の不調、病院、健康、家族、生活、物価、金銭・・・」等、何処でもお決まりの会話が続く。

そして年金の話では「少ない？・・・けどあるとありがたい」また、テロ等外国の不安定な状況等もあり「日本はまし？」など・・・

昨年の流行語大賞にノミネートされた言葉に「都民ファースト」があったが、私ども厚生局は「地域ファースト」の視点から考えることも必要？とも思い、バスに揺られながら、この地域住民の会話から思いを巡らせてみた。

年金の所得代替率(OECD加盟国)

(単位: %)

	公的年金	義務的加入 の私的年金	義務的加入 年金計	任意加入の 私的年金	合計
オーストラリア	13.5	30.9	44.5		44.5
オーストリア	78.1		78.1		78.1
ベルギー	46.6		46.6	13.3	59.9
カナダ	36.7		36.7	29.3	66.0
チリ	0.0	32.8	32.8		32.8
チェコ	49.0		49.0		49.0
デンマーク	21.5	46.3	67.8		67.8
エストニア	28.5	22.0	50.5		50.5
フィンランド	55.8		55.8		55.8
フランス	55.4		55.4		55.4
ドイツ	37.5		37.5	12.5	50.0
ギリシャ	66.7		66.7		66.7
ハンガリー	58.7		58.7		58.7
アイスランド	3.4	65.8	69.2		69.2
アイルランド	34.7		34.7	30.3	65.1
イスラエル	11.8	49.3	61.0		61.0
イタリア	69.5		69.5		69.5
日本	35.1		35.1		35.1
韓国	39.3		39.3		39.3
ルクセンブルク	76.8		76.8		76.8
メキシコ	3.9	21.6	25.5		25.5
オランダ	27.1	63.4	90.5		90.5
ニュージーランド	40.1		40.1	12.4	52.5
ノルウェー	44.0	5.9	49.8		49.8
ポーランド	43.1		43.1		43.1
ポルトガル	73.8		73.8		73.8
スロバキア	38.9	23.1	62.1		62.1
スロベニア	38.4		38.4		38.4
スペイン	82.1		82.1		82.1
スウェーデン	37.0	19.0	56.0		56.0
スイス	23.3	16.9	40.2		40.2
トルコ	75.7		75.7		75.7
イギリス	21.6		21.6	29.8	51.4
アメリカ	35.2		35.2	32.6	67.8
OECD加盟国平均	41.3		52.9		57.6

出典: OECD「PENSIONS AT A GLANCE 2015」

日本の年金は国際比較ではどうなっているのか？

(行政の専門部門や一部シンクタンク等以外あまり論じられていないように感じる方も多いと思います。昔の話となるが元経済企画庁(現総務省等)に出向し、物価の内外価格差(国際比較)調査に携わり OECD 資料に触れる機会もあったことから、少し調べてみると)

所得代替率(OECDとして独自の前提を置き、各国の現役世代が年金を受給しはじめる時点の水準を推計したもの)で、年金の国際比較をみると、OECD34カ国平均の年金(公的年金の他、一定基準以上に普及が進んでいる国については私的年金含)の所得代替率は約53%であることが見てとれます。(別表の2015版OECD公表資料(元版を和訳整理)参照)

義務的加入の年金(私的年金含)の代替率が高いのは、オランダ(約90%)、スペイン(約82%)、オーストリア(約78%)、ルクセンブルグ(約77%)となっております。

更に、よく見るとオランダ、アイスランド、ノルウェーなどは義務的加入の私的年金の給付が占める割合が大きいことが分かります。

また、アメリカやカナダを見ると任意加入の私的年金が含まれています。

日本の年金を見てみると、義務的加入の公的年金のみで約35%となっており、公的年金に限ればOECD34カ国中23番目であることも見て取れます。

皆さんは「イデコ=iDeCo」を知っているだろうか？

特に中国地域（北陸、近畿等の西日本エリア）では「イコカ=icoca」は良く知られているが？・・・

今年1月からスタートした個人型の確定拠出年金の愛称である。公的年金に上乗せして給付を受ける私的年金の一つですが、今までは、自営業者の方などに限られていたものを全ての方が加入できる仕組みとなりました。また、税制優遇措置やその積み立てた資産をポータビリティ（持ち運び）でき、転職したときなども使いやすい仕組みとなっているようで、従来の公的な私的年金（企業年金や国民年金基金）を更に拡充させたものとなった訳です。（年金については、ご承知のとおり過去に色々ありましたが、その結果として議論と検討が深まり、着実に変革前進していることを感じませんか？ただ既に還暦を過ぎた者は、加入できないことに少し寂しさも感じますが・・・なお、「イデコ=iDeCo」については、後段で詳しく説明しています。）

年金のみならず、私どもの所管する厚生行政を見ると、国際的にも例のないわが国の「超少子高齢化社会」到来に向けて、社会保障改革の先進国モデルをめざし、医療、介護、福祉、子育て等々 急がれる課題対策が後に控えているところです。また、私ども中国四国厚生局管内の地域を見ても、まさしく高齢化等が進み、年金、介護、医療、福祉、等々どれをとっても厚生行政と関係が深い地域状況であることが見てとれます。

先ほども触れましたが、私個人は残り数ヶ月の勤務となります。

これから自分が社会の中で支えられる側に移行する端境期に入ったこと。

これからの時代へ向け変革を進める国や行政組織の一員として（端くれとして）、途中で退く（申年、去る）歯がゆさと寂しさ。

これからの次の世代に責任と業務達成等の期待（西、取り）を託すこと。等

縷々 年末から新年に思いを巡らせたところでありませう。